

使徒パウロが聖霊によって、ピリピ教会宛ての手紙を締めくくっています。

ピリピ 4:20-23

20 私たちの父である神に、栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

21 キリスト・イエスにある聖徒の一人ひとりに、よろしく伝えてください。

私と一緒にいる兄弟たちが、あなたがたによろしくと言っています。

この部分に特に注意して下さい。

22 すべての聖徒たち、特にカエサル之家に属する人たちが、よろしくと言っています。

23 主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊とともにありますように。

アーメン。

一緒に祈りましょう。

愛する天のお父様、どうかこの時間、私たちの思考を静めて下さい。

私たちが専念し、気を散らさず、集中できるように導いて下さい。

今日、あなたが御言葉を通して用意して下さいったことに、そしてあなたと御言葉に集中し、専念できますように。

主よ、あなたから受け取ることができるように、私たちの心を整え、開いて下さい。

主よ、あなたに目を留めます。御言葉を通して私たちのいのちに語って下さい。

イエスの御名によって祈ります。アーメン。

私は1本の糸でぶら下がっている/風前の灯火である (I'm hanging on by a thread) という事が、『糸一本で持ちこたえる』というタイトルを選んだ理由です。

しかし真理を知ったなら、『その糸が切れる時』、このタイトルにするべきでしょう。

皆さんは、試練の中で何とか持ちこたえているような状況になったことがありますか。

まさに1本の糸でぶら下がっていて、それを最悪だと考えるなら更に悪くなり、その糸が切れる。

皆さんは、「手紙を締めくくる最後の挨拶だというのに、使徒パウロは、一体全体なぜ『糸一本で持ちこたえている』という題にしたのか。」と疑問に思っているでしょう。

すぐにその理由が分かって頂けることを願っています。

パウロはここで、神が私たちに数々の嵐を通らせるのはどういうことなのか、を言っているのです。

彼はそれがどういうことか、誰よりも分かっていました。

嵐は必ず来ます。

時には、警告なしに襲いかかって来る。

それは大変危険な嵐、恐るべき嵐で、非常な恐怖です。

「なぜ神は、私にこんな事が起こるのを許すのか。」

私たちに、神のなさることは分かりません。

私が話せるのは、パウロはあの苦しみを経験していなければ、ピリピの人たちへの手紙をこのように締めくくることはできなかったということです。

どんな経験か。

I・IIコリント書を読んで下さい。

彼は全ての苦難、困難、試練、船の難破をあからさまに書いています。

また何度も鞭打たれたこと、何度も投獄されたこと、眠れぬ夜を幾晩も過ごしたことを。

すべての聖徒たち、特にカエサルの家に属する人たちが、よろしくと言っています。(ピリピ 4:22)

### すべての聖徒たち

「全ての聖徒、私と一緒にいるキリストにある兄弟姉妹たちが、あなたがたによろしくと言っています。」興味深いのは、彼が詳細に表し、強調し、明確にしている点です。

ピリピ教会に挨拶しているのは、パウロ自身、それに彼と一緒にいる聖徒だけでなく、

**特にカエサルの家**に属する人たちが、よろしくと言っています。

なぜパウロは、今やキリストにある兄弟姉妹となったカエサルの家の人々がいることを、特に彼らがよろしくと言っているということを強調したのでしょうか。

それに答えるには、使徒の働きに戻る必要があります。

**太陽も星も見えない日**が何日も続き、**暴風が激しく吹き荒れたので、私たちが助かる望みも今や完全に絶たれようとしていた。**(使徒 27:20)

背景を少し知っておく必要がありますね。

パウロは無賃で、支払い無しで船に乗っています。

なぜならそれは、客船ではなく囚人護送船だから。

彼は囚人として引き渡されて、ローマ行きの船に乗っているのです。

彼には、これから起こる事が分かっていました。

事実、「この時期は、多くのハリケーンが発生するのでローマ行きの航海は危険だ。少し遅らせるべきだ。」と前もって警告もしていました。

当然、皆は彼の言うことなど聞きません。

そしてローマに向けて出航し、大型ハリケーンに襲われます。

これが最大級のハリケーン、ユーラクロンという暴風。

この嵐は猛烈で、太陽も星も見えない日が続く、暴風が吹き荒れました。

当時は、夜は星を、昼間は太陽の方向を見ながら操縦し、航海していたので、今、彼らは完全に指針を失って、流されるままになっているのです。

50 フィートほど(約 15 メートル以上)の大波が、船に押し寄せているのを想像して下さい。

この嵐の中、今や、助かる望みも絶たれようとしていました。

使徒 27:20 には、こんなに多くの情報が提供されています。

最初に読んだ時は見逃したかもしれませんね。

そうでないことを望みますが。

私が指摘したいのは、ルカが自分の体験を、意識して思い出し、聖霊によって使徒の働きの書に記録しているということ。

皆さん、それを理解しなければなりません。

つまり、ルカはパウロと共に、この船に乗っていたのです。

彼が言っていることに注目して下さい。

「夜間操船の目安となる星はなく、昼間の目安の太陽もない。

暴風は激しく吹きまくり、更にひどくなっていくようだ。」

ルカのこの言葉、「**私たちが助かる望みも今や完全に絶たれようとしていた。**(使徒 27:20)」に気づいて欲しいのですが。

「**私たちが**」とはどういう意味?」パウロとルカ

「パウロも? それは違うでしょう。」いいえ、パウロもです。

「パウロが全ての望みを失った？」

“**今や完全に絶たれようとしていた**” というのは興味深いことで、別の言い方をすれば、「遂に、もう助からないだろうというところまで来ている。我々は終わりだ。」

ルカと一緒にいるパウロ自身も、その船に乗っている全員も、今や助かる望みを失っていました。

私とその事に、こんなに興味をそそられるのは、これがパウロにとって、初めての体験ではないからです。彼は以前に3度も難破を経験していて、難破のプロ。難破の博士号 (Ph. D.)

また、嵐も2度経験している。

だけど、今は大嵐の中において、彼自身がこの現実<sup>23</sup>に呑み込まれ、全員が助かる見込みがないところにいる。補足すると、パウロは今、恐怖におののいています。

使徒パウロが、完全に恐れに支配されていて、この恐れが、完全な絶望になっているのです。

「終わりだ！ どうしようもない！」 「ローマに着くことはないだろう。」

「私が願っていた、カエサルの前に立って申し開きをすることは無理だ。これで終わり。」

「神は私を見放したのだろう。これが私の人生の最終章だ。」

しかし神は、神だけができる方法で、パウロにメッセージを送ります。

「いや、違うよ。パウロ、あなたが恐れおののいているのは分かっている。」

主は御使いをメッセンジャーとしてパウロに送りました。

使徒 27:23-25 に記録されています。

御使いがパウロに現れた後、彼は立ち上がって、そのメッセージを全員に伝えます。

注意すべきは、全乗船者に伝えたということです。

囚人だけでなく、隊長、兵士、親衛隊、水夫たち全員が、これで終わりだと思っていたから。

パウロは立ち上がって言いました。

**使徒 27:23-24a**

**23 昨夜、私の主で、私が仕えている神の御使いが私のそばに立って、**

**24a こう言ったのです。「恐れることはありません。パウロよ。」** ここでちょっと止めます。

もしパウロが恐れでいっぱいになるなら、イエス・キリストに従う信者である私たちも、心配や恐怖に満たされる時があるという理由になりませんか。

パウロが恐れていないなら、御使いは彼に「恐れるな」と言うのでしょうか。

私たちが話しているのは、使徒パウロですよ。

彼の書簡の学びを通してパウロを理解していく中で、明白なのは、彼は不動の人、恐れがない人だということでした。

パウロがリステラにいた時のこと (使徒 14 章)

人々が彼を石打ちにして殺そうとし、事実、彼らはパウロが死んだと思い、そのまま放置しました。

神は、神だけができる方法で言われます。

「あなたの時はまだ終わっていない。わたしはあなたを見放していない。

あなたには、することがまだたくさんある。わたしはあなたに、もっと多くの働きを与えているのだ。」

そしてパウロは、死者が置かれる場所から立ち上がり、リステラへ戻ったのです。

聞いて下さい。

私ならこう考えます。

「私はここでは歓迎されていない。あなた方は私を殺そうとした。

私はそこには戻らない。足の砂を振り払って、今去ります。どうも。」

でもパウロは違う。彼はそこに戻るのです。  
これが勇敢な人、恐れがない人です。

それが、この大嵐の中で、彼は勇気を全て失い、恐怖でいっぱいになっている。  
その時、主は御使いを送り、パウロに伝えます。

「あなたが恐れているのは分かっている。もう乗り越えられないと思っているのを知っている。  
恐れるな。

わたしは、わたしの言葉をあなたに与えたが、今、それを思い起こさせる必要があるようだ。」  
**あなたは必ずカエサルの前に立ちます。(使徒 27:24b)**

パウロはこの言葉を全員に共有しました。

その時の皆の安心感を想像して下さい。

彼らは信仰を持たなければならないけど、まずは安心することからです。

皆はここにいるこの男に、何か違うものがあると感じていました。

間違いなくパウロの評判は知れ渡っており、これらのローマ親衛隊は、パウロが誰かを知っていたのです。

だから、「彼が立ち上がるのには、そうさせる元となるものがあるのだ」と考えました。

言わば、パウロに、彼の話す内容に、どうするかという事に、信憑性があったのです。

#### **私の主で、私が仕えている神の御使いが私のそばに立って、(使徒 27:23)**

「ああ。我々はあなたの神について聞いていた。神があなたの人生になさったことを見て来た。

だからあなたの話を聞こう。神は何と言われたのだ？」

「初めに神は『恐れることはありません。』と言われました。

だからあなた方に言います。恐れてはいけません。

なぜなら神は、この嵐を超えて向こう側に私を連れて行かれるから。

そして私は必ず、法廷でカエサルの前に立つのです。」

#### **神は同船している人たちを、みなあなたに与えておられます。(使徒 27:24b)**

「神はそう言われたのか？」

あなたの主で、あなたが仕えている神が御使いを送って、あなたは法廷でカエサルの前に立つと伝えた？

それは、あなたが生き残るという意味だが、神は、我々全員の命をあなたに与えると言われたのか？」

「そうです。」

「その神についてももう少し知りたいものだ。あなたはこの前、我々は全員死ぬと言ったじゃないか。」

#### **ですから、皆さん、元気を出しなさい。私は神を信じています。**

#### **私に語られたことは、そのとおりになるのです。(使徒 27:25)**

これは驚くべき発言です。

この話の続きはご存知ですね。

私が主にものごく感謝するのは、聖書が私たちのために記録され、保たれてきたことです。

一体どれほどの聖徒が、パウロに起こったこの記録を通して励まされ、勇気づけられたことでしょうか。

彼らは船を失いましたが、人は一人も失われませんでした。

パウロは、この危険な大嵐の向こう側に、神が自分を待っておられることを知らなかったと思います。

彼は、自分がこの嵐を乗り越えることで、どれだけの人々がイエス・キリストの救いに与るかを考えもしなかったと、私は本当に思います。

言い換えると、嵐に遭わなければ、決して救われなかった人たちがたくさんいるのです。

私は、その船に乗っていた人たちの多くがそうだと思いますよ。

もし私が未信者でその船に乗っていて、まさにパウロが言ったような事が起こったなら、マルタ島に上陸した時、まず第一にその岸辺に口づけします。

そして、すぐにその場所で救いに与りますよ。

と言うより、船が衝突して難破する前に救われるでしょう。

もしパウロが“再び”難破しなかったら、彼らがローマに行く途中に辿り着いたマルタ島の人たちは・・・これは想定外のことでした。

私はある人のこの言葉が好きです。

「時折神は、私たちが進むことと、そして留まることを指揮なさる。」

神は、私たちが向き直すようにされます。

神が方向転換させる唯一の方法は、嵐に遭うのを許すことなのです。

正直になりましょう。

人生に満足していて、物事が上手く回っている時は、「感謝します!」「ハレルヤ!」

しかし、神に問題があつて…と言えるならばですが。

神に問題はありませんよ。私たちが神の問題です。他に良い表現がないので。

神はご自分の民を、ある地点に到達させたいのです。

「主はその御目をもって全地を隅々まで見渡し、その心がご自分と全く一つになっている人々に御力を現わしてください。」(Ⅱ歴代誌 16:9)

と預言者がアサ王に語ったように、神は全地球をご覧になって、ご自分に完全に明け渡し、委ねている人々を探しておられます。

そして見つけると、バン!「よし!」

問題は、あなたがそこで、ちょっと満足し過ぎており、居心地が良すぎるかもしれないこと。

それで「どうすれば、あなたをこちらに行かせることができるか。そうだ。嵐を送ろう。」

「神は苦しむ者を慰める」と聞いたことがあるでしょう。

「神は満足している者を苦しませる」と聞いたことはありますか。

神はどのようにして、あなたをA地点からB地点に連れて行かれるか。

あなたがA地点で満足し過ぎているなら、B地点のことは考えないでしょう。

だから神はA地点を破壊するのです。

すると「神よ!何をなさっているのですか?!」

「おお、今、あなたの注目がわたしに向いたね。」

「はい…何をお許しになったのですか。何が起こるのですか。」

「あなたの思いも寄らないことだ。」

ガリラヤ湖で、イエスが弟子たちを舟に乗せた時、主は嵐が来ることを完全にご存知でした。

イエスは弟子たちを向こう岸へ行かせたかったのです。

神は嵐の中にいるパウロに、より大きな計画を持っておられました。

そうです。彼はローマに行って、カエサルの前に立ちます。

ところでですが、それによって、カエサル之家に属する人々が、イエス・キリストの救いに導かれました。しかしそこまでの道中、マルタ島でも、彼らが辿り着いた時の記述が滑稽なんです。

その海岸に上陸した時、パウロは何をしましたか。

私なら、疲れ切ってビーチに横たわり、嵐を生き延びて、そこにいることを感謝しているでしょう。

パウロは違います。

彼は起き上がって、火を起こし、たき火をしました。

その時何が起こったかと言うと、火の中からまむしが出て来て、パウロの腕に絡みついたのです。

「私は嵐から生還したばかりなのに、またしても難破した。

神は、私が法廷でカエサルの前に立つと言われたが、まだローマに到着しないで、このマルタ島にいる。

おまけに、このミスター・まむし…」でしょ？

そして彼がどうしたかと言うと、ミスター・マムシを振り払い、放り投げた。

まむしがパウロの腕に絡みついた時、島の住民はこういう事を見ているので、いつも対処していて、

島の人々は、この生き物がパウロの手にぶら下がっているのを見て、言い合った。

「この人はきっと人殺した。海からは救われたが、正義の女神はこの人を生かしておかないのだ。」

(使徒 28:4)

パウロはまむしを振り落としました。

すると住民たちは、全く逆の方に向かったのです。

「なんということだ！ この人は神様だ！」(使徒 28:6)

彼らの驚きを想像してみてください。

私はこれを、“イエス・キリストの福音を共有する機会”と呼んでいます。

このタイミングと言い、最高です。

パウロは神様ではありません。

嵐から、難破から生還させ、そして、まむしに噛まれても死なせない神に仕える人なのです。

本当は死んでしまいますよ。

事実住民たちは、彼が腫れ上がって倒れ、口から泡を吹いて死ぬとっていました。

そうなるはずなのに、ならなかった。

彼らの様子を想像するなら、よく分かっている感じで側に立って、「さあ、彼はやられるぞ。」

ところが、何も起こらない。

彼らはまだ待っている。でも何も起こらない。

それで、互いに「なぜ、何も起こらない？」と話し始め、そうして全員が救われるのです。

全ては、この嵐のお陰です。

御言葉の権威に立って、そして私個人の経験、イエス・キリストとの歩みから、私が伝えたいことは神の普遍のご性質。

皆さんが今日、試練の嵐の中にいるなら、私は御言葉の権威をもって、皆さんに約束し、保証します。

あなたは嵐を切り抜けて、向こう側に着くことができます。

こんな馬鹿げた表現をするのを許して頂きたいのですが、私は聖書の中で、嵐が起こって向こう側に着くことができなかった場面は1度も見出すことができません。

ガリラヤ湖で、イエスが弟子たちを舟に乗せて向こう岸に行かせ、「あちらで会おう」と言われました。

すると、どこからともなく嵐が来て、全員死ぬ。

5章で終わり。(マルコ書)

こんな馬鹿げた表現をしたのを許して下さい。

でも、これが真理です。

そうです。神はその嵐を許されました。

だけど、あなたは乗り越えます。

「でも先生、この苦痛には耐えられません。もう、治療の効果もないんです。」

「癌が広がっていて、良くなる見込みがない。」

「長年連れ添って来た妻/夫が言ったのです。『もう無理だ』と。」

「息子/娘が遠く離れてしまって、神様と関わろうとしないし、私とも距離を置きます。

彼らのことを思うと本当に心配なのです。

彼らのために祈ると、ますます悪くなっているようで。」

「私は嵐の真ただ中にいます。乗り越えられるか分からない。」

いいえ、あなたは乗り越えます。大丈夫です。

神は、あなたに用意していることのために、あなたを整えておられる。

あなたを通してご自分の御業を現すために、あなたの中で働いておられるのです。

それが神のやり方です。

では、結論です。

私たちには皆、それぞれのクリスチャン人生を著した手紙の結びがありますが、それは唯一、人生の嵐に相対してのみ書けるのです。

「別の方法で書けるなら良いのに…」

イザヤは言いました。

**見よ。わたしはあなたを練ったが、銀のようにではない。**

**わたしは苦しみの炉であなたを試した。(イザヤ 48:10)**

先週、デボーション記事を読んでいたのですが、その引用の一つが大嫌いで。

こんな事、言うてはいけませんかね。

基本的にこういうものです。

「神は不可能な者（私です）を見つけて、不可能を可能にされる。

その人を砕くことによって。打ち壊すことによって。」

人生に嵐も雨もなく、毎日一日中いいお天気で、陽が降り注ぐなら、それを何と言うのでしょうか。

“不毛の砂漠”です。

私がいつも驚かされるのは、カエサルの家の人々や、マルタ島の住民のような未信者の人たち。

彼らは私たちを見ている。

私たちは、自分はクリスチャンだと伝えますね。

すると、私たちの人生を見て、「よし、いいだろう。あんたは自分をクリスチャンと呼ぶんだな。」

彼らはあなたのキリスト教信仰を見て、疑問を2つ抱いています。

①「本物の信仰なのか。」

②「本当に有益なのか。」

②が、彼らが知りたい、より重要なことで、彼らは益を求めている。これがポイントです。

彼らは、あなたがクリスチャンとして、自分たちと同じような試練を通っているのを見えています。

そして、あなたが試練の向こう側に到達するのを、その時、あなたが以前よりも忍耐力を持ち、辛抱強く、思いやりに満ちて、もっと謙虚で、愛情深く、優しく、穏やかになっているのを、(他にもたくさんありますよ)見ます。

これが、神が嵐を通してなさることで、神はあなたを通して働くために、あなたの中で働く必要があるのです。

この人たちはあなたを見て、その益を自分も欲しいと思います。

なぜなら、あなたに働くのなら、自分たちにも望みがあるから。

もし皆さんが、「人々が最も求め、必要とするものは何か。彼らが私たちの生き方を見て、切望するものは何か。」

を私に尋ねるなら、それは希望 (Hope) です。

こう言われています。

「人は、食べ物と水がなくても数日生きられるが、希望なしでは 8 秒も生きられない。」

これが私たちの希望なのです。

人々は、私たちの人生を著わした手紙を読んでいます。

あなたの手紙は、どう読まれていますか。

私のはどうでしょうか。

パウロがⅡコリントに書いていることを聞いて下さい。

Ⅱコリント 3:3 (新共同訳)

あなたがたは、キリストが私たちを用いてお書きになった手紙として公にされています。

墨ではなく生ける神の霊によって、石の板ではなく人の心の板に、書きつけられた手紙です。

パウロは、ピリピ教会に宛てた手紙の最後に書きました。

あの嵐の後で。

「私はやり遂げた！ 生き残った！」と言わんばかりに。

「それだけでなく、その結果、神がなされたことを見て下さい！」

あの嵐によって、神は働かれたのです。

嵐は必要でした。

しかも、大変危険な嵐でならなければならなかった。

神がそれを許されました。

その結果、神がなされたことに注目して下さい。

祈りましょう。

主よ、ありがとうございます。

この礼拝の、そしてオンラインで見ている誰もが、本当に辛い時を経験しています。

主よ、どうか、あなたが皆さんの心を強くし、励まして下さい。

あなたがパウロに約束したように、この方々にも「乗り越えることができる」ということを、そして、嵐を生き残るだけでなく、その向こう側には壮大で、栄光に満ちたものを備えて下さること、それはあなたにしかできないことを思い起こさせて下さい。

主よ、感謝します。

イエスの御名によって祈ります。

アーメン。

~~~~~

「きょう、もし御声を聞くなれば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by JD Farag 牧師

カルバリーチャペルカネオヘへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Rumi